

菅新政権人事について

党内の実力者を要所に配し、民間人の登用などで菅カラーを打ち出した人事だと受け止めている。難しい時期の党務を任される岡田克也幹事長には、挙党体制を実現できるように党内調整と野党対応を強く望みたい。

国民は、数年に亘り政権の誕生と崩壊を繰り返し見せつけられてきた。政権に対する国民の目は厳しさを増しており、まさに民主党の政権担当能力が問われている。

今、最も求められているのは、デフレ脱却と自律的な経済回復に向けて、地域の小規模・中小企業の需要を増やすための道筋を確実なものとするることである。そのためにも地域主権改革を強力に推し進め、地域の産業基盤の空洞化を食い止める必要があり、片山善博総務相の手腕に注目している。

また、地元選出の前原誠司外務相には、EPA・FTAの締結に向けた交渉を積極的に進めるとともに、日米安保を基軸に米国政界とのパイプを活かし、行き詰まる沖縄米軍基地問題の突破口を開いていただきたい。

以 上

平成 22 年 9 月 17 日
京都商工会議所
会頭 立石 義雄